

創世記14章18－20節 「天から来る報い」

1A 勝利に対する祝福

1B 戦いの取り分の拒否

2B いと高き神の祝福

1C 天と地を造られた方

2C 戦われた方

3C 什一の献げ物

3B 霊的祝福

2A アブラハムの見た方

1B 義と平和の口づけ

2B いと高き神の祭司

1C ダビデの後に来られる方

2C パンとぶどう酒

3B エルサレムで、よみがえられた方

本文

創世記 14 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、創世記 13 章まで来ました。来週の午後礼拝で、14 章と 15 章を一節ずつ見ていきたいと思います。今朝は、14 章の最後に出てくる出来事の部分を見て、じっくり学びたいと思います。18 節から 20 節です。「¹⁸ また、サレムの王メルキゼデクは、パンとぶどう酒を持って来た。彼はいと高き神の祭司であった。¹⁹ 彼はアブラムを祝福して言った。「アブラムに祝福あれ。いと高き神、天と地を造られた方より。²⁰ いと高き神に誉れあれ。あなたの敵をあなたの手に渡された方に。」アブラムはすべての物の十分の一を彼に与えた。」アブラム、後のアブラハムですが、彼が戦いの中で、甥のロトが連れ去られました。ソドムの王が戦っていたけれども、逃げました。その時、ロトはソドムに住んでいました。それで連れ去られたのです。アブラムは、ロトとその家族、また財産を奪還するために、自分の家にいる、戦いに訓練された者たちを遣わしました。それで、見事、すべてを取り戻しました。

そして、場面が「王の谷」というところに移ります。それは、エルサレムのケデロンの谷と呼ばれる谷の一部です。オリーブ山とモリヤ山の間にあります。そこに、ソドムの王もやってきました。それで、戦いで勝利を収めたアブラムに、分け前を与えようとしています。けれども、彼はきっぱりと断ります。しかし、今、読んだメルキゼデクの祝福を彼は受けるのです。また、分け前をもらうのではなく、むしろ十分の一を、メルキゼデクに与えています。

1A 勝利に対する祝福

1B 戦いの取り分の拒否

私たちが、スポーツ界などで、だれかがすばらしい試合をして、逆転勝利をしたとします。そうすれば、その人に対して、人々の称賛が集まります。そして、大きな賞金も与えられます。そして、それらは、その人のこれまでの努力の成果であり、当然、受けるべき報酬ですね。しばしば、有名人は妬みを受け、中傷を受けやすいですが、良い成績を収めたスポーツ選手に対して、受けた報酬について、文句を言う人は少ないと思います。

それは、スポーツ界だけの話ではありません。戦争において、勝った者が多くの分け前をもらうのは、当時の戦争において当然とされていました。だから今、アブラムのところにソドム王が来て、敵から奪い取った財産はあなたが持っていくようにと言っています(21 節)。しかし、アブラムはきっぱりと断っています。22-23 節を見てください、「²² 私は、いと高き神、天と地を造られた方、主に誓う。²³ 糸一本、履き物のひも一本さえ、私はあなたの所有物から何一つ取らない。それは、『アブラムを富ませたのは、この私だ』とあなたが言わないようにするためだ。」

2B いと高き神の祝福

私たちは、これまでも、神を畏れ、神を信じる人が、良いことが起こったら、そのまま主にいけにえを献げた場面を見ました。ノアが、箱舟から出てきた時です。水が引いて、一年ぶりに箱舟から出てくることができました。彼が初めに行ったのは、全焼のいけにえを献げることでした。何か、良いことが起こった時に、私たちは、その祝福ばかりに目を留めて、その祝福をくださった神から目を離してしまうことが多いです。しかし、そうではなく、すべて主のなされたことを覚えて、その恵みを忘れずに、主に感謝し、礼拝を献げるのです。「詩 103:2 わがたましいよ【主】をほめたたえよ。主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな。」

1C 天と地を造られた方

祝福の一つは、「アブラムに祝福あれ。いと高き神、天と地を造られた方より。」というものです。いと高き神です。あらゆる神々と呼ばれるものよりも、もっと高いところにおられる方ということです。世にある王たちなど、この神から見たら、ちりにしかすぎないのです。「イザ 40:15 見よ。国々は手桶の一しずく、秤の上のごみのように見なされる。見よ。主は島々をちりのように取り上げる。」そして、何か物質的な取り分をもらうよりも、天と地のすべてを造られ、それらを所有しておられる方からの祝福のほうが、はるかにまさっているということです。

2C 戦われた方

そして、もう一つの祝福は、戦いで勝利です。「²⁰ いと高き神に誉れあれ。あなたの敵をあなたの手に渡された方に。」アブラムたちが戦いに打ち勝つことのできたのは、主ご自身が、敵を自分の手に渡してくださったからです。自分で戦ったのではないのです。主が戦ってくださったのです。自分はただ、主の戦いに関わらせていただいただけです。これが、勝利へと導きました。世におけ

る戦いは、その戦った者がすべての功績が与えられます。しかし、アブラムは、そういった称賛は受けたくありませんでした。事実、主ご自身が勝たせてくださったのです。

3C 什一の献げ物

ですから、アブラムは、自分の財産の十分の一を献げました。多くの取り分を受け取るのではなく、むしろ、この方に持っているものの一部をお返ししたのです。もし、「こんなに奉仕しているのに、何か褒美はないのか？」というような気持ちになっているのであれば、やめたほうがいいです。いと高き方が祝福し、天地を造られた方が祝福されます。そして、戦いは主のものです。今の自分がいるのは、神の恵みがあるからです。それが分かっている人は、主に仕えることは恵みであり、特権であり、むしろ、自分自身がこの方に与えたい、献げたいと願うはずです。自分は、神に一方的に与えている者ではなく、むしろ与えられている者なのですから。

3B 霊的祝福

これが、霊的祝福というものです。「エペ 1:3 私たちの主イエス・キリストの父である神がほめたえられますように。神はキリストにあって、天上にあるすべての霊的祝福をもって私たちを祝福してくださいました。」イエスは、与えれば、与えられると約束されましたが、霊的な原則は、物質的な原理とは違うのです。ちょうど重力の法則であれば、上から下に落ちます。ところが、空気力学であれば、巨大な鉄の塊が逆に下から上へと浮かび上がるのです。与えているつもりが、実は受けており、その恵みに応答して与えると、ますます与えられているという循環に入っています。

2A アブラハムの見た方

このように、アブラム、後のアブラハムは、戦いの勝利において、世の王からの分け前ではなく、いと高き神からの祝福を受けました。そして、その霊的な祝福の中身を見ると、非常に驚きます。結論から話しますと、それは、イエス・キリストご自身を見るという祝福です。主が、ユダヤ人との論争で、こう語られました。「ヨハ 8:56 あなたがたの父アブラハムは、わたしの日を見るようになることを、大いに喜んでいました。そして、それを見て、喜んだのです。」アブラハムは、イエス様の日を見たと言っています。これは、将来の日ではありません。聞いたユダヤ人は、「8:57 あなたはまだ五十歳になっていないのに、アブラハムを見たのか。」と言いました。アブラハムは、確かに、イエスご自身、あるいはこの方の栄光の現した何者かを見たのです。それが、このメルキゼデクであると考えられます。

1B 義と平和の口づけ

聖書は、不思議に、エルサレムが神の都であると定めています。その理由は分かりません。けれども、ここ創世記 14 章から、すでに神がここを選ばれていることが分かります。先ほど話したように、ここは王の谷と呼ばれ、ケデロン谷の一部です。オリーブの山と、モリヤの山の間にある谷です。そのモリヤ山で、アブラハムは後にイサクをいけにえとして献げなさいと命じられます。そ

して、そのモリヤの山に後に神殿をソロモンが立て、神の都として機能するのです。

ここから出てきたのが、メルキゼデクです。「**サレムの王**」であります。サレムは平和という意味です。エルサレムは、「神の平和」という意味です。そして、メルキゼデクというのは、「ツェデク」が「義」という意味で、「メレク」が「王」です。つまり「義の王」です。ソドムの王がやってきた時に、アブラムは、その王ではなく、平和の町から来た、義の王の迎えを受けたのです。

平和があるところに義があり、義があるからこそ平和があるという幻が、預言に数多く出てきます。イザヤの預言はその典型です。メシアがこの地上に誕生する預言が、イザヤ書にあります。その子は「平和の君」と呼ばれて、かつ「さばきと正義」を行うことが書かれています。「9:6-7 ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。7 その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に就いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これを支える。今よりとこしえまで。万軍の【主】の熱心がこれを成し遂げる。」

そして、メシアご自身が、神の義による、懲らしめと裁きをご自身の身に身代わりに受けて、私たちに平安を与られます。「イザ 53:5 しかし、彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。」神は正しい方ですから、罪に悪に妥協されません。しかし、平安を与られます。それを可能にするのは、身代わりです。主のしもべご自身が、この懲らしめを身に受けられて、それで私たちに平安をくださいます。それが、キリストが受けられたむち打ちと、十字架刑なのです。

詩篇 58 篇には、これを「義と平和が口づけする」という表現を使っています。「詩 85:9-10 確かに御救いは主を恐れる者たちに近い。それは栄光が私たちの地にとどまるためです。10 恵みとまことはともに会い義と平和は口づけします。」神の救いは、義によって裁かれなければいけない者たちが、正しい方の身代わりの死によって、罪が赦され、平和が与えられることで実現します。

2B いと高き神の祭司

1C ダビデの後に来られる方

そして、メルキゼデクは、「**彼はいと高き神の祭司であつた**」というんですね！王であるのに、同時に、祭司なのです。イスラエルの統治は、ちょうど日本の統治と似ています。政治的な権力とは別に、祭祀的な権威があります。つまり、王がいるのですが、主ご自身に仕える時は祭司がそれを務めます。天皇陛下は、私たちと異なる宗教、神道ですが、そこで祭祀的な働きをして、また国民の象徴でもあります。政治権力はないですが、統治する象徴的な権威があります。それと似ていて、神は、ご自分の住まわれる幕屋や神殿では、レビ族のアロンの子孫たちが祭司となり、それらのことを執り行います。けれども、王はユダ族から出て、ダビデの家から出てくる者が王です。

ところが、ここでは王であるのに、祭司でもあるのです。詩篇の著者が、ダビデから出る者で、メルキゼデクの位になった、祭司が出てくることを預言しました。交読をした詩篇 110 篇です。

1【主】は私の主に言われた。「あなたはわたしの右の座に着いていなさい。わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまで。」

ここは、イエスご自身が引用された箇所、まぎれもなくメシア、キリストの預言です。キリストは、ダビデから出てくるのに、主と呼んでいます。

2【主】はあなたの力の杖をシオンから伸ばされる。「あなたの敵のただ中で治めよ」と。3 あなたの民はあなたの戦いの日に喜んで仕える。聖なる威光をまつて夜明け前から。あなたの若さは朝露のようだ。

キリストは、敵に戦ってくださる王であることがわかります。しかし、見てください。

4【主】は誓われた。思い直されることはない。「あなたはメルキゼデクの例に倣いとこしえに祭司である。」

ここの「メルキゼデクの例に倣い」は、「位にならい」とも訳せます。つまり、ここの祭司の位は、アロン系列ではなく、その上位にある位なのです。そして、この方は王であり、そして祭司なのです。

そして、この預言がイエス・キリストにあって成就しました。つまり、イエス・キリストは、私たちにとって王であり、また祭司なのです。私たちの生活をすべて支配されている方です。私たちの人生を仕切っているのは、自分ではなく、イエス・キリストです。この方が王であり、主であり、私たちは礼拝するのです。同時に、この方は、祭司なのです。だから、私たちに寄り添うことができます。肉体を取られてきたので、すべて私たちの肉の弱さを知っておられます。それで、私たちのために、父なる神に執り成してください。仲介してくださるのです。「ロマ 8:34 だれが、私たちに罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていてくださるのです。」

2C パンとぶどう酒

そして、この方は、いと高き神の祭司として、「パンとぶどう酒を持って来た」とあります。モーセを通して与えられた律法には、何度となく、パンによる供え物があり、またぶどう酒による注ぎの献げ物も出てきます。ユダヤ人の家庭では、安息日が始まる時に、必ず、ぶどう酒を飲み、パンを裂いて食べます。そして、過越の食事には、必ず種なしパンが出てきて、それからぶどう酒も飲みます。そこで、イエスが弟子たちと食事をしておられるときに、パンを裂かれて、「これが、わたしのか

らだです。取って食べなさい。」と言われ、ぶどう酒の杯については、「**あなたがたのために流される、わたしの血による、新しい契約です。(ルカ 22:20)**」と言われました。

3B エルサレムで、よみがえられた方

分かりますか？メルキゼデクによるアブラムへの祝福は、後に来られるキリストの祝福なのです。解釈によって、メルキゼデク自身が、キリストの現れだというものもあります。あるいは、キリストを予め示す別の人物だとする解釈もあります。どちらにしても、彼の示した霊的な祝福は、明らかにキリストご自身の祝福なのだという事です。

平和と義で、私たちを支配される方です。神の義が、罪に対する裁きが身代わりの死に現れました。それで、私たちに神の平安が与えられました。そして、パンとぶどう酒によって、そのからだ
と流された血を覚えるようにしてくださっています。さらに、私たちの肉に弱さのために、父なる神に執り成してくださる方なのです。この霊的祝福は、この世がもたらすいかなる褒美よりも、代えがたい、はるかにすぐれた天からの祝福、霊的祝福なのです！

そして、この祝福は、私たちが受けるだけでなく、与えることによってかえって与えられるものです。物質は与えれば、なくなります。しかし、霊においては、与えれば、与えられるのです。だから、私たちは礼拝を献げます。自分自身を与えます。けれども、それは、神からとてつもない祝福を受けることであり、与えて、受けていくという循環になっていくのです。

まだ、イエスを主として知らない方は、ぜひ自分の主として自分の人生を献げてみてください。そうすれば、この世の与えるどんな富よりも、はるかにすぐれた富を受け取ることになります。